

オープンソースの本を書きましょう!

オープンソースカンファレンス2009 Tokyo/Spring
2009年2月21日(土) B2階B 12:00~12:45

特定非営利活動法人
地域自立ソフトウェア連携機構(MSCO)

理事・事務局長 高橋正視
takahashi@msco.jp



1994年7月発行で非常に売れた本



1994年7月15日第1刷発行

1994年9月15日第4刷発行

- ・新しいソフトをインストールするたびに
行方不明
 - ・「メモリが足りません」といわれる
 - ・日本語FEPが使い分けられない
 - ・いくつものアプリケーションソフトを使い
分けられない
- CONFIG.SYSなどを修正する方法
(本谷裕二 著)

2002年の本谷裕二さんの文章(1)

これまで出版社は、ハイリスク、ハイリターンを原則に、1冊の本を作るために250万円～400万円前後の資金を用意し、出版活動をおこなってきました。

しかし、本は日に日に売れなくなり、それともなあって、出版社がつぶれ、取次の鈴木書店もつぶれ、街の書店もつぶれ、出版業界は厳しい状態になっています。



2002年の本谷裕二さんの文章(2)

当然出版社が経費を削減するために、編集費を削り、DTPなどの制作費も削り、原稿料も初期出版部数を減らして印税の支出額を減らしたり、印税率を8%からさらに2/3を月末締め翌々10日に支払い、2/3を超えて売れた分は、毎年10月末に過去1年間の実売部数を集計して12月末に支払うなどといった支払い形態を、強要される事態になってきています。



2002年の本谷裕二さんの文章(3)

編集費もバブル中はページ3500円といった額で支払われていましたが、いまではページ1200円前後。DTPも6000円の時期もありましたが、1200円まで値下げされてきています。またエディトリアルデザイナーには発注せず、著者がページレイアウトまで配慮した原稿を書くよう依頼され、図版の大きさを決めページからはみ出さないよう文字数を合わせた原稿を要求されるようになってきています。



2002年の本谷裕二さんの文章(4)

イラストレーターもカバーデザイナーも、新人を使い、新人ゆえに支払額を下げるようにしています。

このままでは、出版の世界に携わり続けるにはかなり経済的に難しくなるのは、目に見えています。



2002年の本谷裕二さんの文章(5)

執筆者も、編集者も、DTP製作者も、イラストレータも、デザイナーも絞られるだけ絞られ、制作意欲を持って作るのではなく、とにかく作っていかないと食えないという状況での出版制作活動にならざるを得ません。この状況は、出版社がいいところをもっているのかというと、そうではなく、出版社もかなりぎりぎりのところで、このような経費削減をやっているのです。



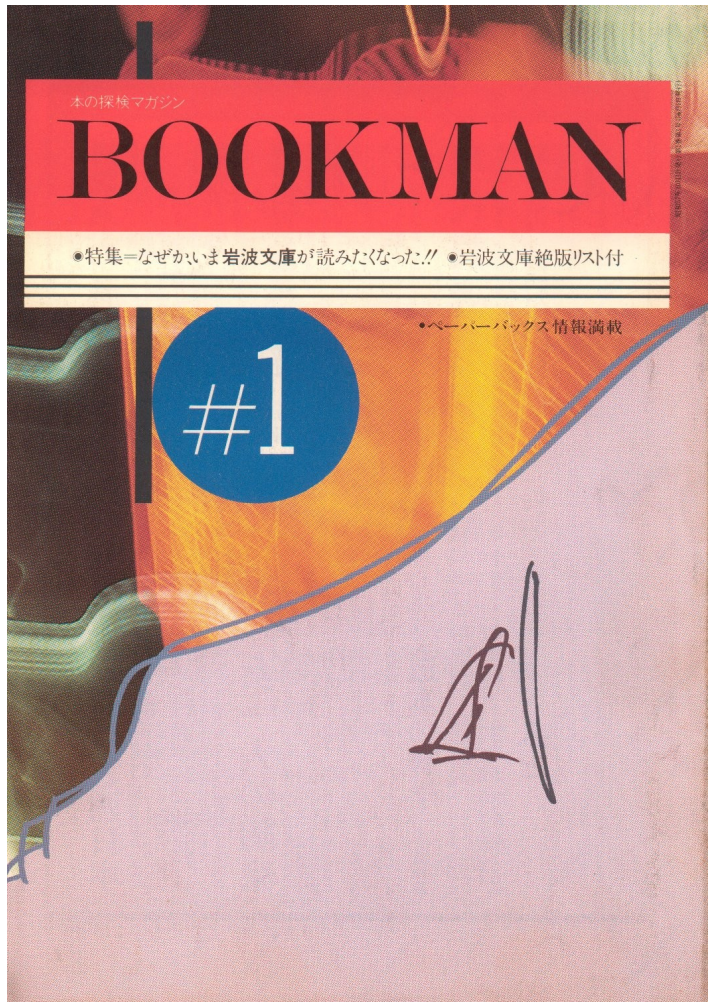
2002年の本谷裕二さんの文章(6)

これでは、出版社も著者も編集者もDTP製作者もイラストレータもデザイナーも、みんな共倒れになってしまいます。

出版社だけが、多額な初期投資をして出版するこれまでの形態では、いまの不況下での出版は難しく、執筆者や編集プロダクションを巻き添えにして、共倒れになっていくのは想像に苦しくありません。ではどうやって、出版活動を続けていけばいいのか。



本谷裕二さんから相談



- ・1982年10月に創刊したいまや幻の書評誌「BOOKMAN」
- ・出版社の権利をまだ持っている。
- ・出版社を復活させ、自分で本を出そうと思ふ。→先生も本を書きませんか。



本谷さんと始めた投資型出版

本の出版資金を、出版社だけで負担するのではなく、一般から資金を集め、その資金をベースに本を制作していくというもの。

これは、編集者やDTP制作者、デザイナー、イラストレーターなどの各分野の方もリスクを負い、その代わりハイリターンで売上金を、みんなに分け合うという出版方式を提案するというものです。



本谷さんと始めた投資型出版



- 2002年11月発行
- 2000部印刷
- 印刷費は出版社と著者が負担
- 4人での作業なので、売上げは4人で配分
- 印刷した本は著者が保管

1年に200部程度売れるだけ→10年かかる

ご当地検定をサポートします



- これまでのテストはいい加減
- 毎年の問題の難易度が一定とは限らない
- NPO法人MSCOではご当地検定をサポートします。
- 「佐渡トキ検定」の実施を計画中（日本財団申請中）

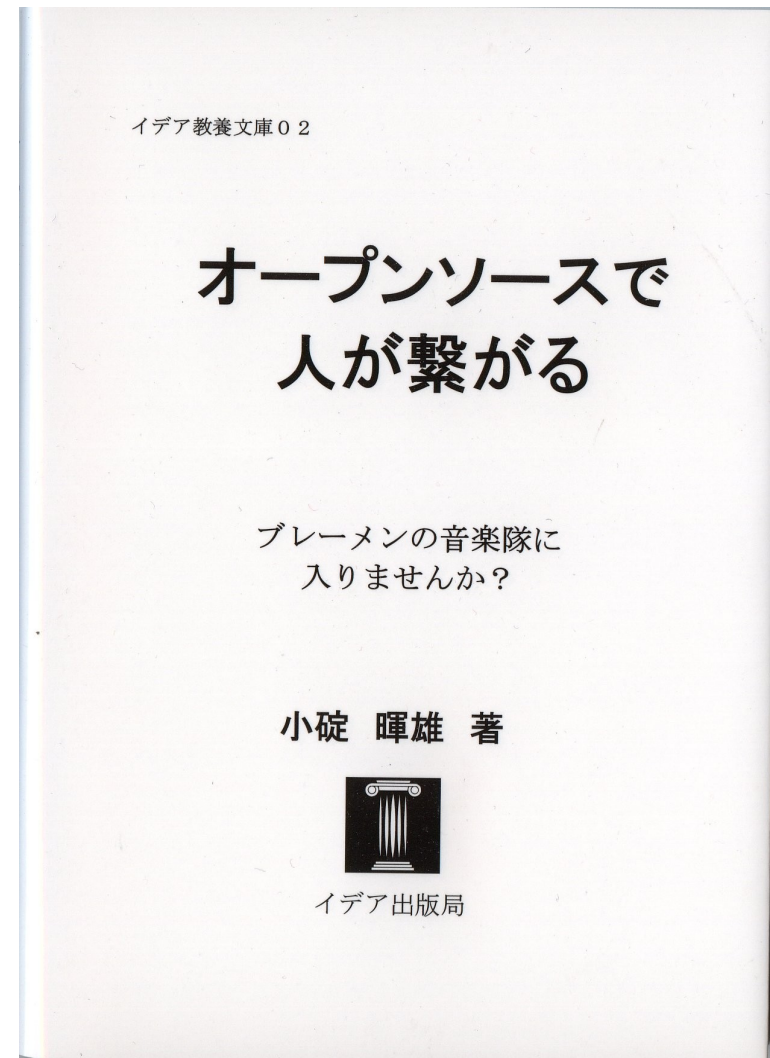


やはり本は売れない！

- 営業力が弱い小さな出版社では、一般の書店になかなか本が置いてもらえない。
- 流通に流しても、ほとんどが返品で戻ってくる。
(7割以上は返品)
- 本が売れなければ出資者も集まらない。
- (アイデア出版局) 自費出版はやりたくない。
 - 人の本で儲けるつもりはない
 - 自分が書いた本で儲けたい。



オープンソース関係の本

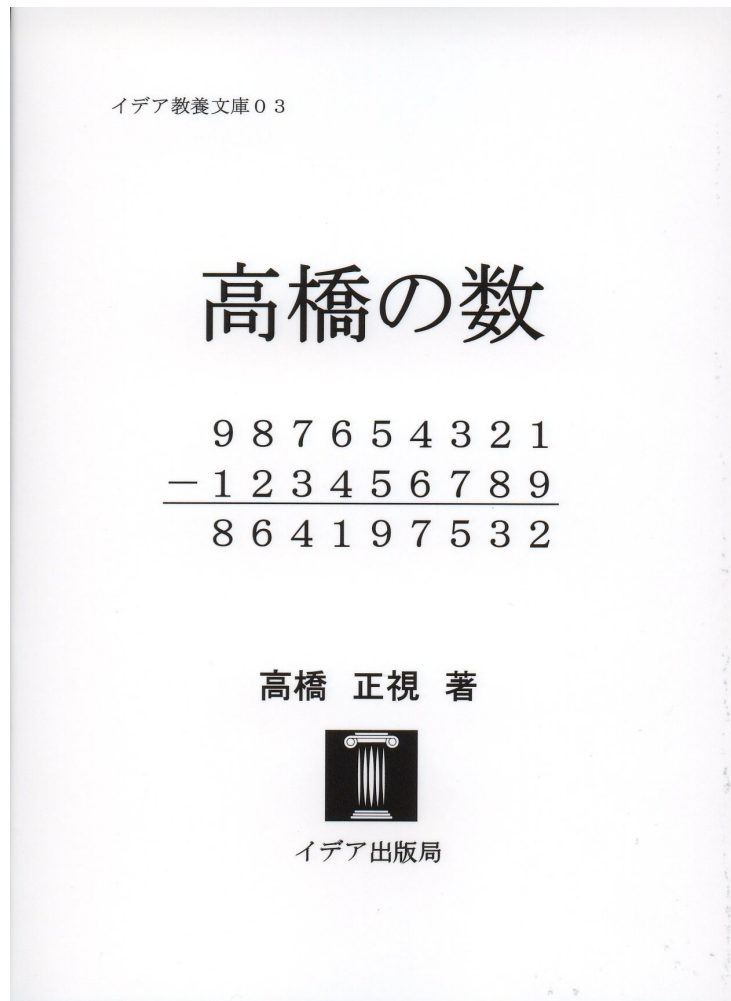


投資型出版の変形

- ・「オープンソースじゃなきゃ駄目」(2004年湯澤一比古 著)、「オープンソースで人が繋がる」(2005年小碇暉雄 著)の印刷代全額を私が出資。
- ・著者には原稿料や印税の代わりに、本を100部程度献本することで出版。
- ・その後、著者が著者割引で本を購入し、販売するか名刺代わりに配る。
- ・2つの本は、**ほぼ在庫なし**の状態。



そこで、「自分出版」



- 本谷さんの最初の提案は、印刷代を著者が出して、売れた本の1割を出版社に。
- 書店での販売をあきらめて、自分で作って自分で売る「自分出版」に。



自費出版と自分出版

	自費出版	自分出版
出版費用	印刷代 $\times \alpha$ を著者	印刷代 $+$ α を著者
本の管理	出版社	自分
本の納品	出版社	自分
印税	初版本はなし(?)	なし
返品、廃棄の費用	出版社	なし(名刺代わりに配る)
著者配本	少量	大量

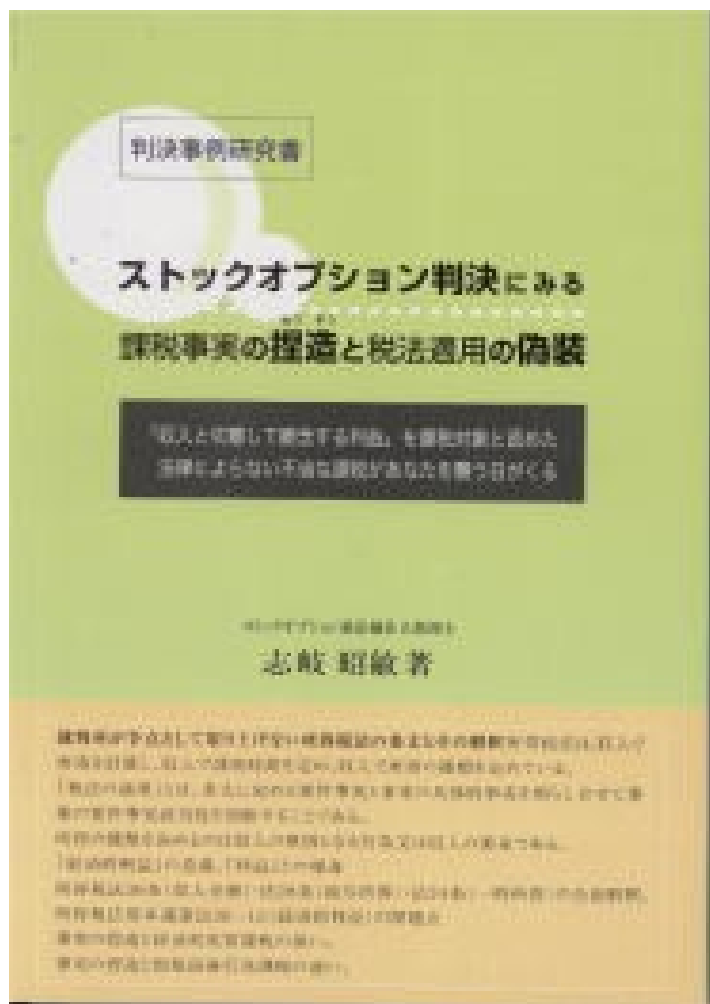


皆さんも！

- ・小さな出版社を見つけて交渉してみては。
- ・出版社にはリスクが少ない。
- ・自分で作った本は自分で売ろう！
- ・セミナーを行って、参加費に資料代に上乗せする方法。→NPO法人MSCOは会費無料のNPO会員があり、共催のセミナーも可能
- ・OSCの会場で、他のコミュニティーの本と物々交換



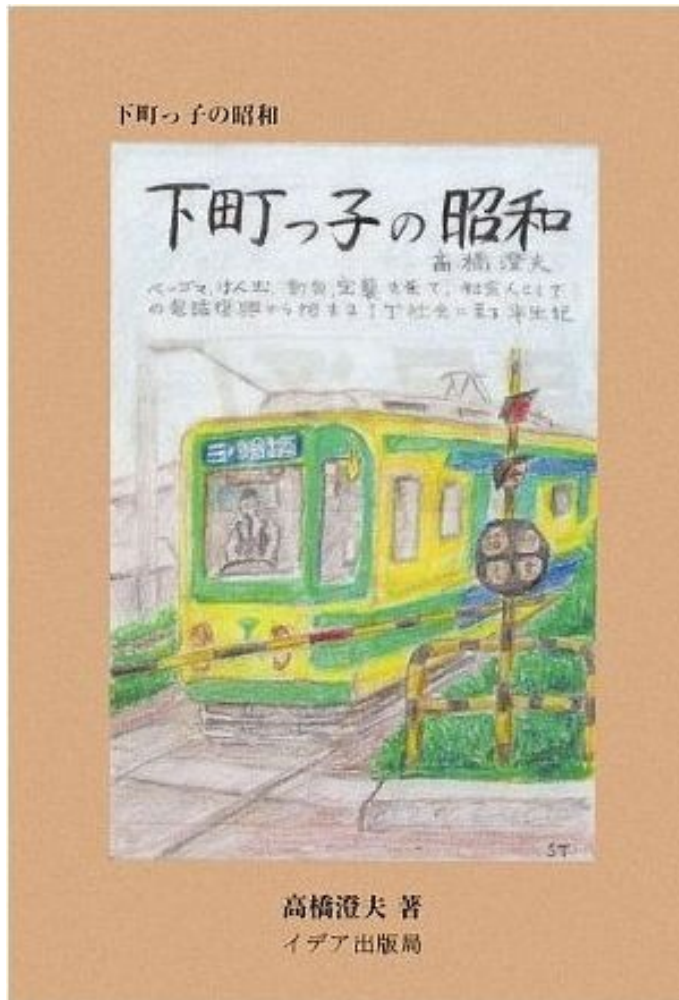
自分で出版社を作る方法も！



- スtockオプション判決にみる課税事実の捏造と税法適用の偽装
- ISBN
- 978-4-9904019-0-0
- 1,890円(税込)



少量部数だと高く売れるかも！



- 昭和六十四年間の記録
- 電話—その復興からIT社会の
実現へ 戦後の荒廃から復興
する電話事業に携わる。「すぐ
つく電話」「すぐつながる電話」
を目標に掲げた時代から、世に
出たコンピュータを通信回線で
つなぐデータ通信によって情報
が広がる今日のIT社会創出に
努める。
- 同級生の元早稲田大学総長の
推薦文があるが…。

ミス・ユニバース最終候補者



- この本の1ページには私の写真が載ってるの :) → ブログで紹介
- 現在、アマゾンでは定価の4倍



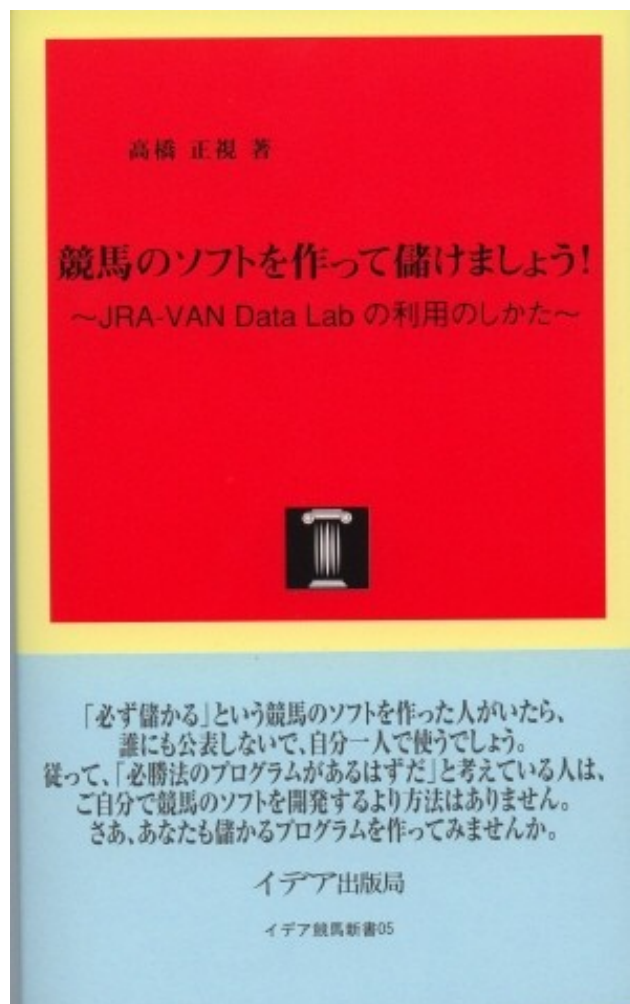
自分出版 即売中

私の本を即売中！
いくらでもよいです。

（100円単位）



競馬の本・ソフトもあります



- 中央競馬の1986年からの公式データの入手方法
- 残念ながら、Windows用
- ソフトは無料で使えるが、JRA-VANとの契約が必要
- 明日のフェブラリーステークス(GI)の現在のオッズは・・・。



ご静聴ありがとうございました。



- さらに詳しい説明は、4階のNPO法人地域自立ソフトウェア連携機構(MSCO)・コンピュータ職人の会のブースにどうぞ。
- 私の本を即売中
- 本日の本の売り上げは、母の介護費用に。

